うし 牛 ウシ 丑

南国市の牛づくし

今年は、丑年。
皆さんも数多くの牛の写真やイラストなどをあちこちで見かけたことと思います。
牛は、昔から農耕の役割を果たすなど、私たちの生活に深く関わってきました。
今回は丑年こちなんで、市内の牛に関する『とっておきの情報』をお知らせします。

◇ 牛のいる学校（高知農業高校）

高知農業高校生と雪ヶ峰牧場の共同開発した『雪ヶ峰牛乳』をご存じですか。

添加物のないおいしい牛乳を作ろうと、農業高校畜産科の生徒たちが、牧草を撒くところから自分たちが関わって、大事に育ててきたホルスタイン牛と、乳脂肪率の高い雪ヶ峰牧場のジャージー牛の乳をブレンドして、とてもおいしい牛乳が、ひまわり乳業より昨年の秋から出ています。

牛乳の栄養価を示す無脂肪乳固形率は、全国平均より高い八・六％となっています。

また、七百二十cc入りの牛乳びんには、『高知農業高校』の名前が大きく書かれています。昨年の文化祭で、この牛乳のお披露目をしたところ、訪れた人に大変好評だったそうです。市内では南部の量販店でしか取り扱ってないのが、ちょっと寂しいですが。

確かに一味違うと評判です。

◇ 牛のいる神社（立田）

学問の神様・菅原道真公を祀る天満宮・天神社は全国にたくさんある。私たちの南国市にも「立田天神」があり、梅の花と牛の像があるのを知っていますか？

立田天神のいわれは、今から千年以上昔のこと。菅原道真が、九州太宰府に左遷された時、長男高視もまた都を追われ、土佐国潮江村に居住した。道真死後、老臣一行は遺品を捧じ土佐にやって来た。一人の乳母は、道真の大切にしていた白梅の盆栽をもち、立田まできた時、病没。その死をいたんだ村人らが、祠をたてて、白梅をご神体がわりに道真公と乳母の霊を祀った。

（南国市文化財めぐり案内から）

幾代も咲きつがれた梅は、今年もまた咲きはじめた。さて、どうして牛の像があるのかな？

いろいろ調べていると、嶋岡晨著『菅原道真』という本の中に、その答えをみつけた。天神さまの太宰、九州太宰府天満宮にも、もちろん牛の石像がある。これは、菅公の遺体を運ぶ途中、動かなくなった牛車にちなみ、また菅公が丑年生まれだったことが理由のようだ。

立田の天神さまは、毎日参拝する熱心な人もいるが、夏祭り・秋祭り・お正月が最ももにぎわう。受験シーズンの今、合格祈願に訪れる受験生をやさしい目の牛と梅の花が、温かく迎えてくれる。

今年は丑年でもあり、わが町の天神さまにお参りし、菅原道真公を偲ぶのもいいかもしれない。

◇ 牛のいる風景（白木谷）

高知医科大学から市道を北に入ること約十分。岡豊町を一望できる広大な山中に斉藤牧場が見えてくる。約四十五頭の乳牛が放牧されていて、東車野村の天尚高原を思わせる、のどかな雰囲気に取材班も南国市にこんないいところがあったのか、と思わず感激した。牧場主の斉藤陽一さんは、昭和四十二年に開業。放牧された乳牛は、主に天然の日本芝・牧草を食料としているため、出る乳の量は、合成飼料で飼育されている乳牛に比べると半分くらいだそうだが、製品は低温殺菌の『山地酪農牛乳』として特産品化されている。一日に朝晩の二回搾乳するのであるが、鈴を鳴らすと自分の搾乳スペースに入ってくるようにしつけられていた。

天狗高原を思わせる風景

例年、地元の小学生や保育の園児たちが見学にくるそうだが、丑年の今年は、マスコミからの取材も増えそうで、牛にしても多忙な年になりそうである。

◇ 牛のいる踊り（十市）

十市の牛おどりは、一九九六年、十市の青年を中心にして復活した南国市の郷土芸能。農民が精糖工場で、牛と力を合わせて動く様子が演技されます。

この中で歌われる『甘蔗（かんしょ）絞め歌』は、「よさこい節」とならんで幕末土佐藩の民謡の「双璧」をなすものである、との記述があります。

この牛おどりのあらすじは、一生懸命働いている農民と牛は疲労困ぱい状況にあり、やがて、そのために牛が倒れてしまいます。農民夫婦は、慌てふためきながらも「医者」を呼び、懸命に牛を励まし続けます。「竹庵先生」は、おもむろに診察しますが「もう、助からん。なんでも好きなものを食べさしてやりなされ。牛よ、お前はこの世の別れに何か食べたい物はないか？」と聞きます。すると、牛は「ホッパー（餅）が食いたい」と答えます。先生すかさず「これは食わん病じゃ」と診たてます。

まぼろしまつりで披露された「牛おどり」

農民夫婦がさっそく「ホッパー」のつきたてを食わすと牛は元気になり、歌とともに働き始めます。

めでたしめでたしの「十市の牛おどり」。

ユーモラスな演技の中に「庶民のこころ」が表現され、観る人の心をなごませてくれます。

＊「天保十六年寅の春」のことと歌われていますが、このころは、全国的に「一揆」が頻発したころで、同八年には、大阪で「大塩平八郎の乱」が起こっています。